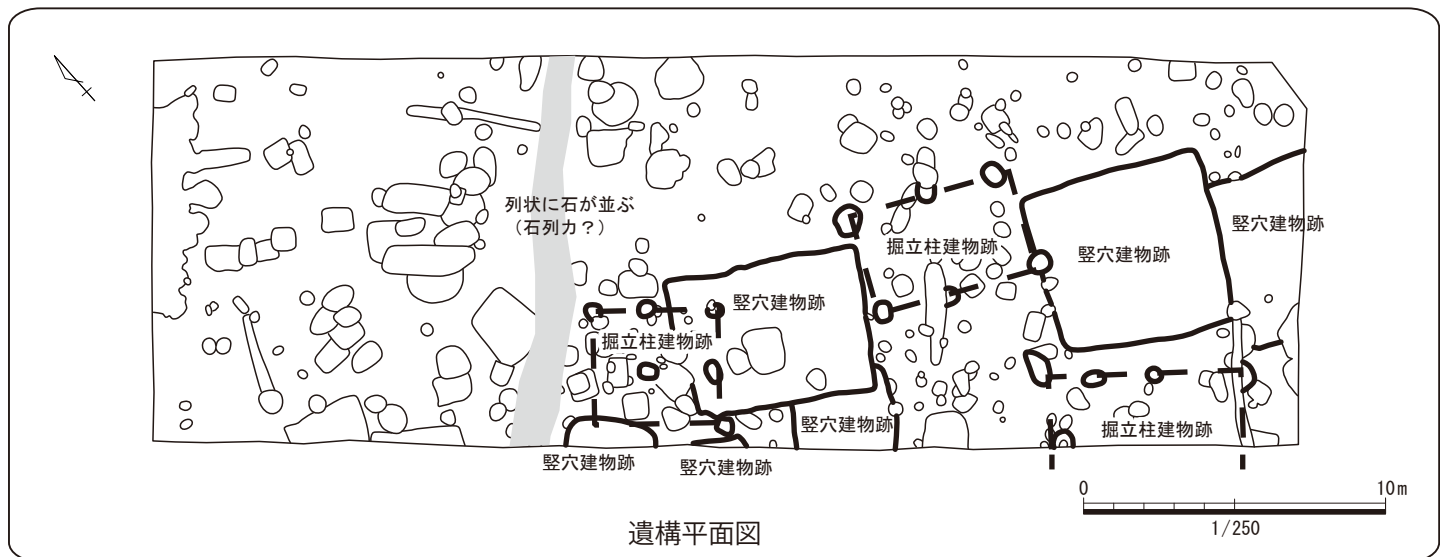


上町遺跡 第50次 現地説明会



竪穴建物跡の発掘の様子(東から)



上町遺跡第50次調査の概要

遺構：竪穴建物跡6軒（2軒はカマドも確認）、掘立柱建物跡3棟、集石遺構、石列？など

遺物：須恵器、灰釉陶器、土師器など

知見：上町遺跡では8世紀前半の大型掘立柱建物11棟が見つかっており、古代の飛騨国荒城郡の郡役所である郡衙(郡家)に関連する遺跡であることが知られている。今回は、その東700mの地点で竪穴建物(奈良時代)や掘立柱建物を発見した。掘立柱建物は竪穴建物より新しく、竪穴建物を建替えたように見える。同じような状況は、南西50mの栗原センター地点でも確認されており、竪穴建物を壊す形で9世紀代の掘立柱建物が建てられている。古代の栗原神社周辺は掘立柱建物が建ち並ぶ風景だったのだろう。

確認した掘立柱建物は、時期・規模ともに遺跡の中心部で営まれた8世紀初頭を中心とする大形掘立柱建物とは異なる。郡衙関連の建物ではなく、集落の有力者が住居や倉庫などとして建築した可能性が高いであろう。

< 用語解説 >

たてあなたてものもと
【竪穴建物跡】

地面を掘りくぼめた後に柱を建てて木を組み、そこにカヤなどを葺いていた建物です。縄文時代以降、主に住居として建てられました。

ほったてばしらたてものもと
【掘立柱建物跡】

地面に穴を掘って柱を立てて造った建物です。柱の痕跡が残っているものもあります。

【カマド】

古墳時代の5世紀ごろに朝鮮半島から伝わり、日本中に広まりました。ガスコンロが農村にまで普及する昭和30年代まで、どの家にもカマドはありました。カマドは1,500年間も日本人の生活とかわってきたのです。

